

平成30年度 高松市病院事業会計決算の概要について



塩江分院



病院局 経営企画課



1 平成30年度収益的収支、現金・預金の状況

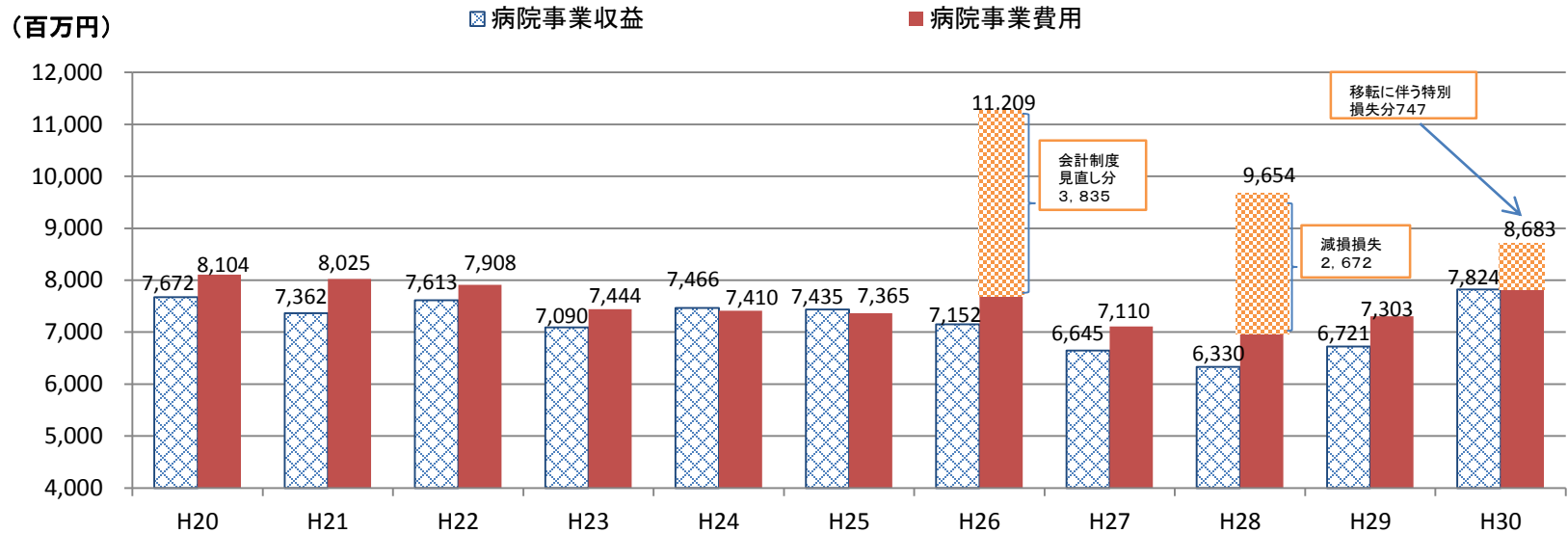
(単位:百万円)

区 分		みんなの病院	塩江分院	全体
収 益	医業収益	5,958	463	6,421
	うち一般会計負担金	388	0	388
	医業外収益	928	289	1,217
	うち一般会計負担金	803	281	1,084
	附帯事業収益	—	17	17
経常収益 A	6,886	769	7,655	
費 用	医業費用	6,738	783	7,521
	医業外費用	297	17	314
	附帯事業費用	—	23	23
経常費用 B	7,036	823	7,859	
経常損益 C=A-B	△150	△54	△204	
特別利益 D	169	1	169	
特別損失 E	821	3	824	
特別損益 F=D-E	△652	△3	△655	
純損益 C+F	△802	△57	△859	
※税抜 ※端数処理の関係上、合計と一致しないものがある。				
現金・預金(年度末)	402	106	508	
長期借入・病院間融通を除いた実質残高※	△2,523	266	△2,257	

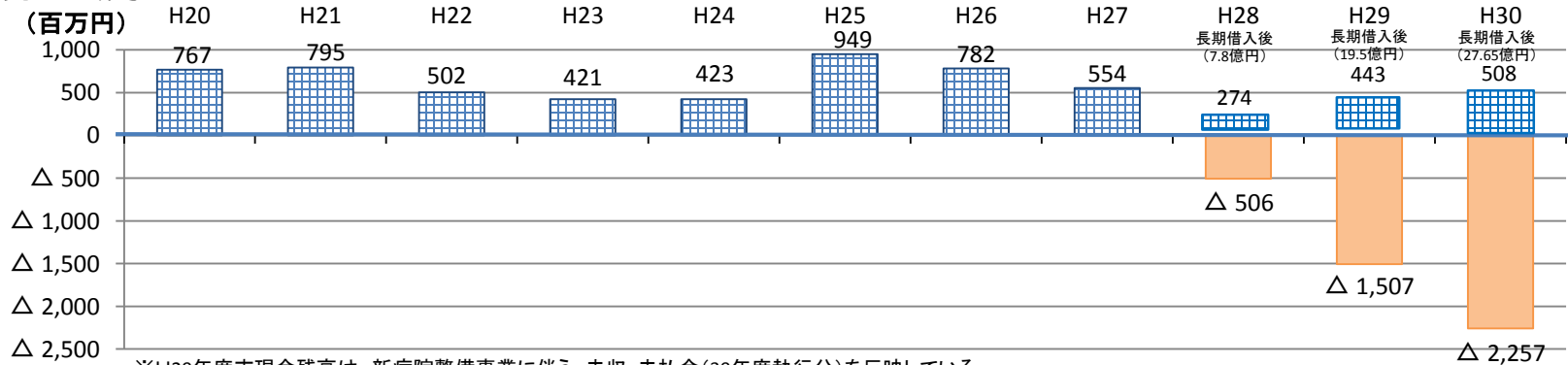
※長期借入27億6,500万円 病院間融通(塩江⇒みんな)1億6,000万円



2 病院事業収益・費用の推移（病院全体）



現金残高



【分析と課題】

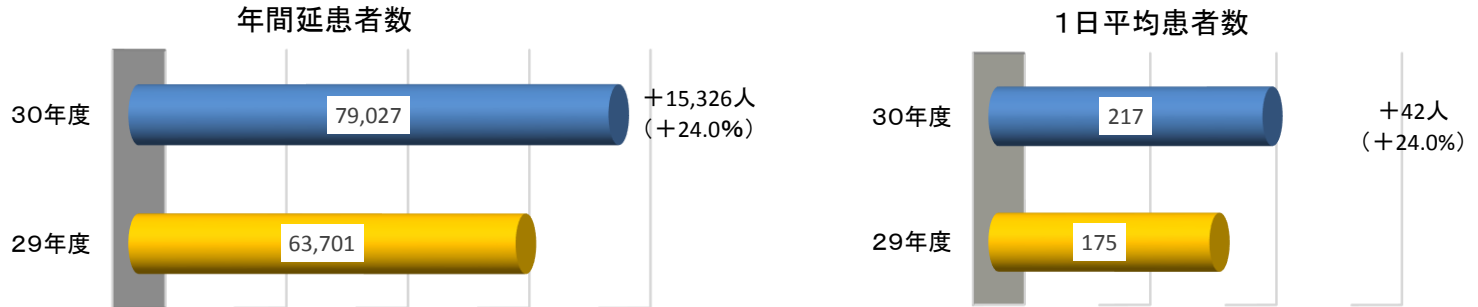
ここ数年で常勤医師の増員が図られたことに伴う診療体制の充実により、病院事業収益は、回復傾向に転じている。今後、病院事業費用の節減にも合わせて取り組み、経営健全化を進め、現金・預金残高の確保に努める必要がある。



3-1 年間延患者数と1日平均患者数

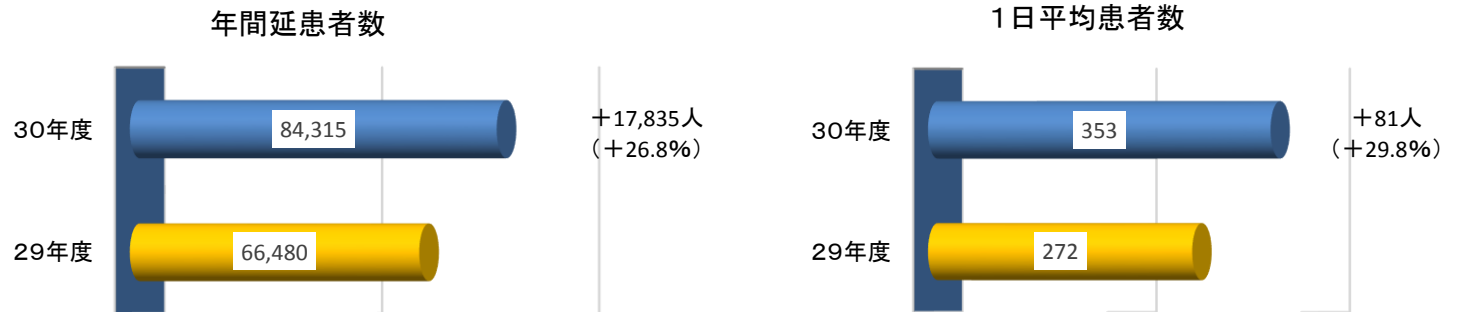
市民病院／みんなの病院

入院



●みんなの病院への移転に際して、入院患者の調整により、患者数は一時的に減少したものの、新設した「救急科」を中心に、救急医療に重点を置いて取り組んできたことなどにより、順調に増加している。

外来



※香川診療所の外来患者は含めていない。

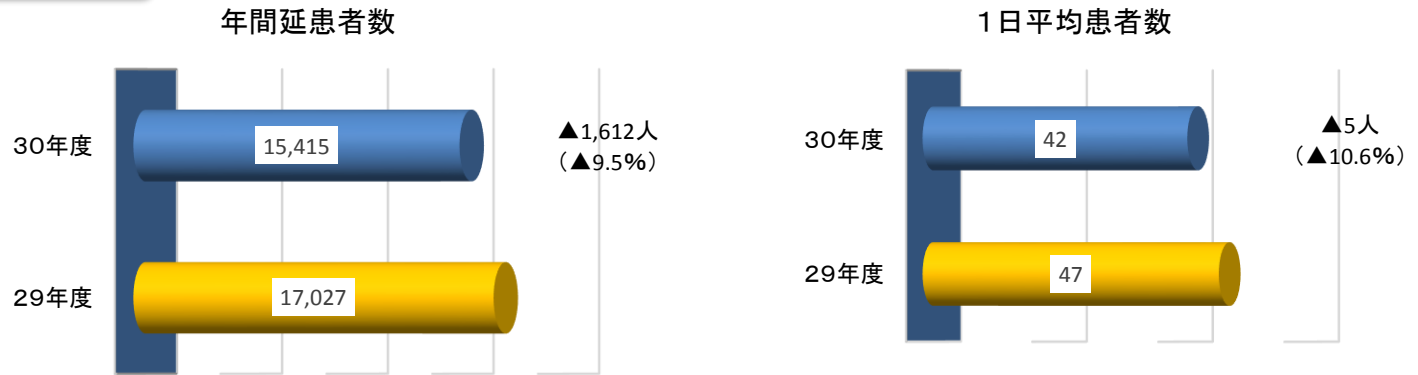
●みんなの病院への移転に際して、外来診療の休診により、患者数は一時的に減少したものの、開院後は速やかに回復・増加している。



3-2 年間延患者数と1日平均患者数

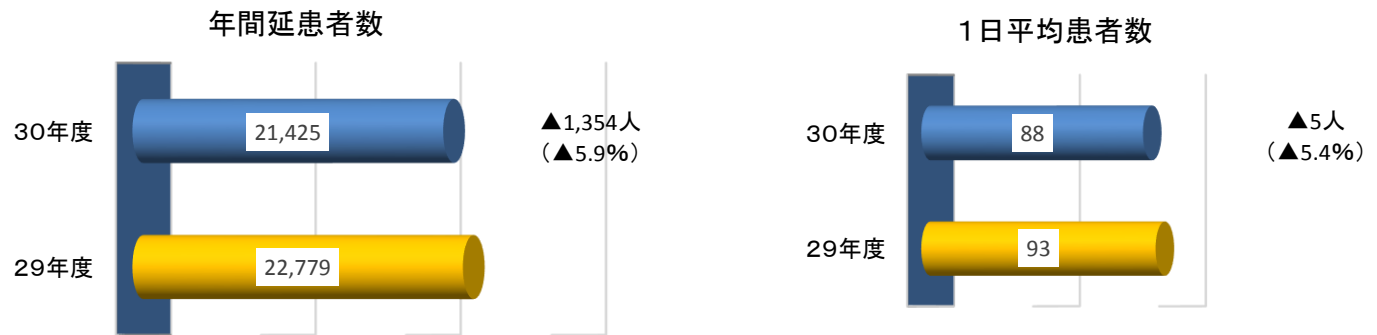
塩江分院

入院



●塩江地区住民の減少や入院患者の施設入所などが影響し、減少している。

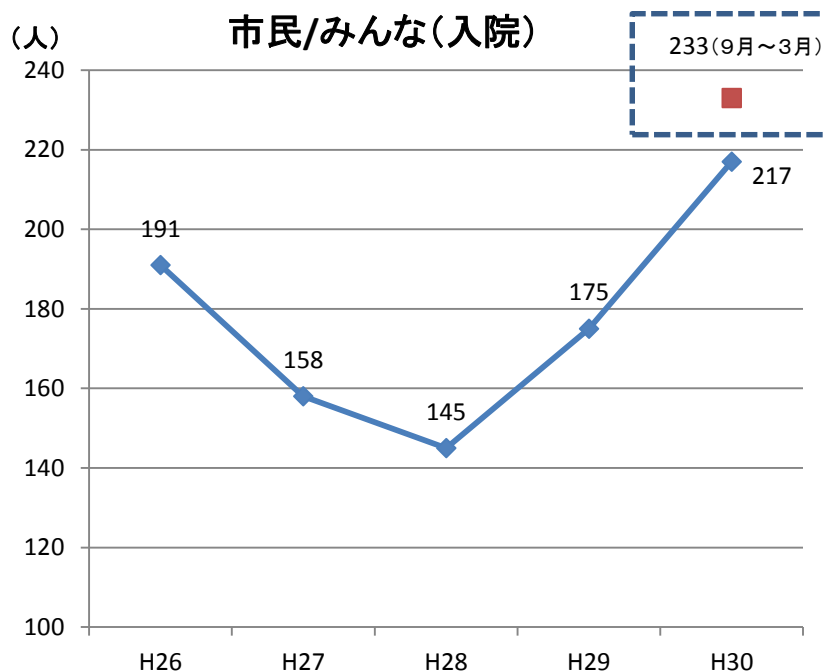
外来



●入院と同様に、対象となる患者数が減少していることにより、前年度を下回った。



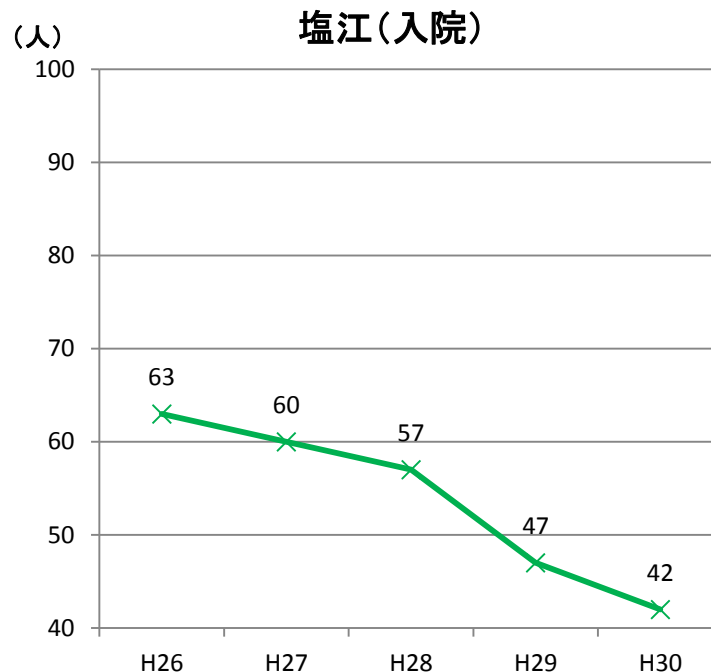
3-3 患者数（1日当たり）の推移 ア 入院（市民／みんな・塩江）



【分析と課題】

ここ数年で常勤医師の増員（H29末：43人→H30末51人）が図られたことに伴う診療体制の充実に加え、みんなの病院移転後に新設した「救急科」を中心に、救急医療に取り組んだことにより、順調に増加している。

今後においても、良質かつ高度な医療の提供はもちろんのこと、接遇等患者サービスの向上に努め、安定した患者数の獲得に努める必要がある。



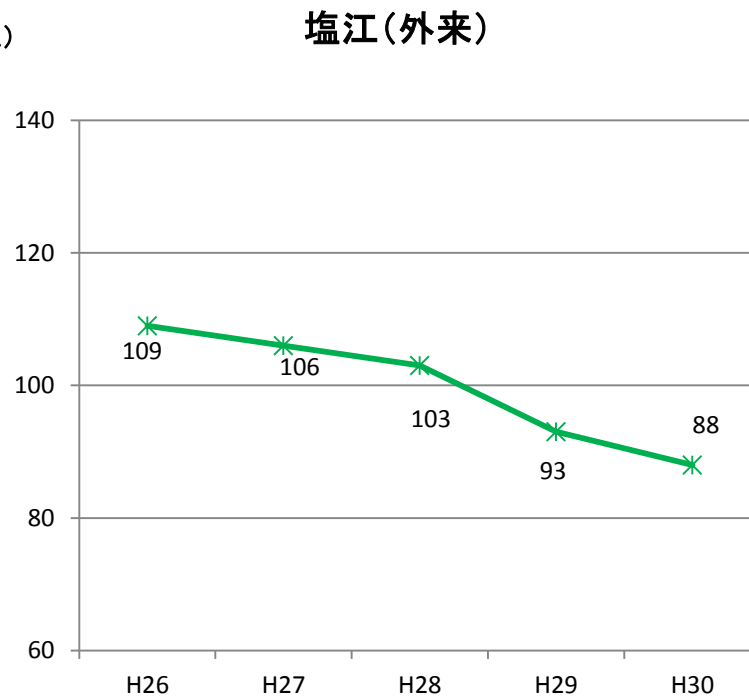
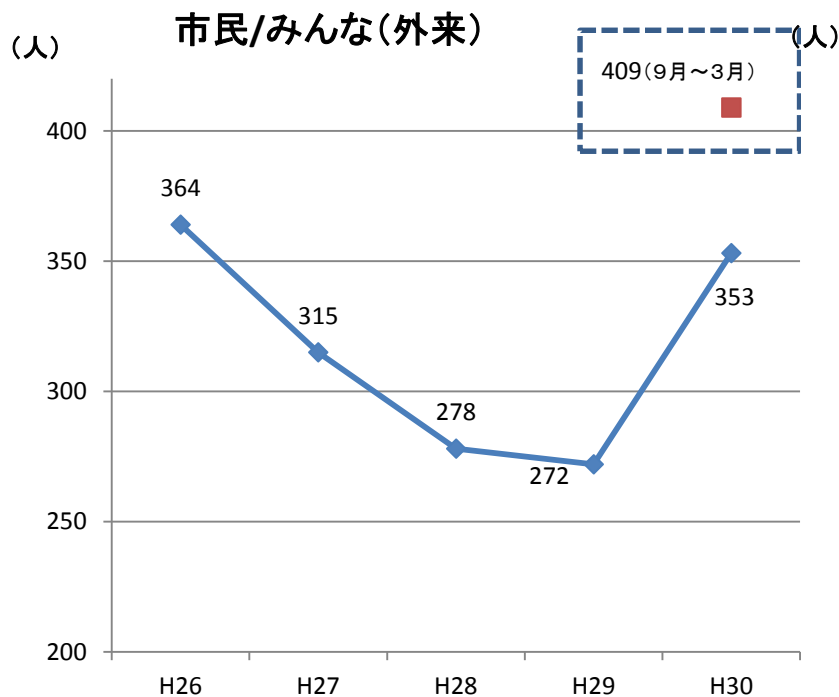
【分析と課題】

患者数の減少は、塩江地域の人口の減少のほか、入院患者の死亡や介護施設への入所などが影響しているものと考えられる。

今後も、大幅な患者数の増加は見込めないが、引き続き、慢性期医療を中心に、在宅医療支援病院として療養を必要とする患者を積極的に受け入れる中で、良質な医療サービスの提供に努める必要がある。



3-3 患者数（1日当たり）の推移 イ 外来（市民／みんな・塩江）



【分析と課題】

入院と同様に患者数は、順調に増加している。
引き続き、機能分化を推進しつつも、地域の医療機関からの紹介患者の拡充や、救急患者の積極的な受入など、更なる外来患者の増加に向けて、取り組むことが重要である。

【分析と課題】

塩江分院の外来患者数は、減少傾向にある。
これまで以上に、「地域まるごと医療」に取り組み、山間・へき地である塩江地区唯一の病院として、地域に根ざした良質な医療サービスの提供に努める必要がある。



4-1 みんなの病院の収益的収支 ア 前年度との比較

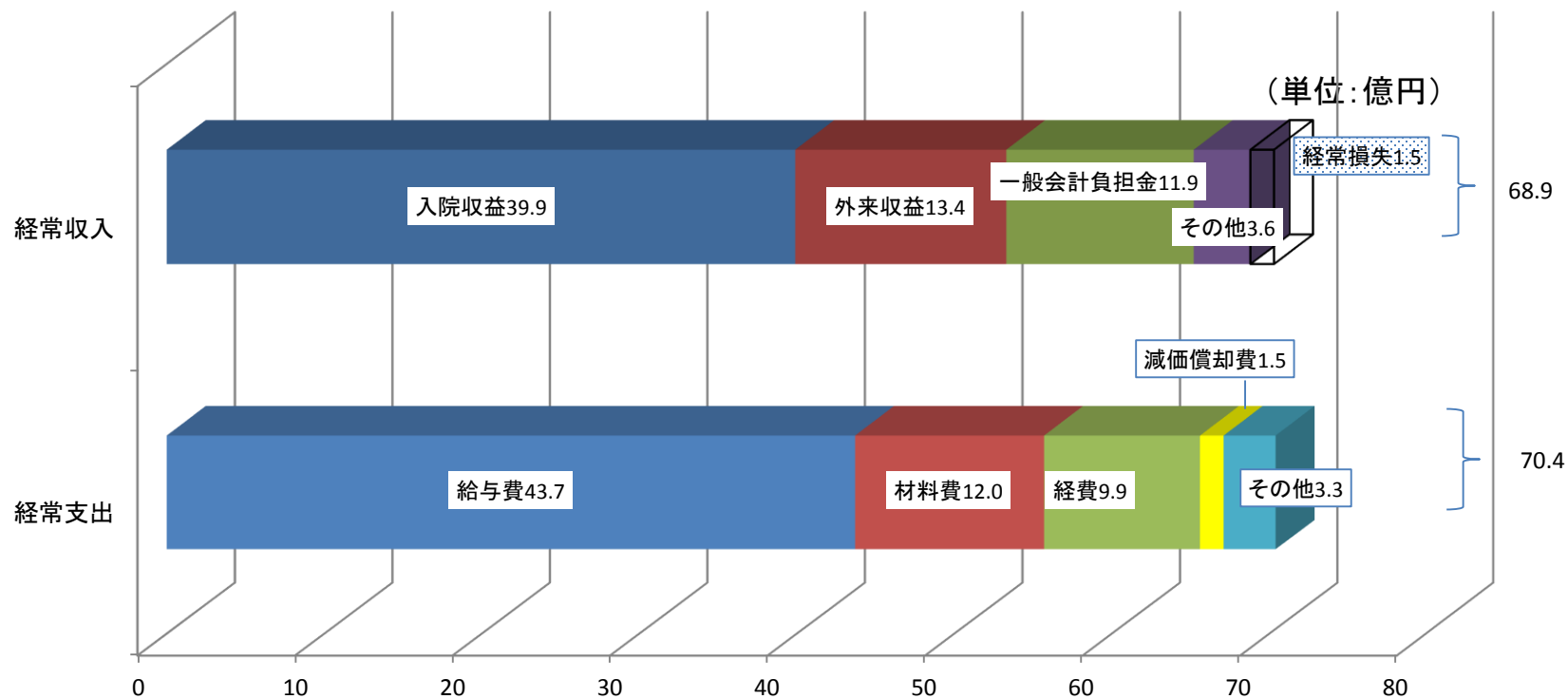
(単位:百万円)

区 分		H30	H29	差引増減
経常収益	医業収益	5,958	4,733	1,225
	うち入院収益	3,994	3,087	907
	うち外来収益	1,342	1,178	164
	うち一般会計負担金	388	213	175
	医業外収益	928	1,034	△106
	うち一般会計負担金	803	909	△106
	合計	6,886	5,767	1,119
経常費用	医業費用	6,738	6,169	569
	うち給与費	4,374	4,232	142
	(職員数:人【正規医師数】)	402【51】	379【45】	23【6】
	うち材料費	1,198	929	269
	うち経費	987	810	177
	うち減価償却費	154	168	△14
	医業外費用	297	199	98
合計	7,036	6,368	668	
差引		△150	△601	451

※税抜 ※H30及びH29ともに、香川診療所分を含む ※端数処理の関係上、合計と一致しないものがある。
※職員数は、特別職を除く。



4-2 みんなの病院の収益的収支 イ 収益対費用



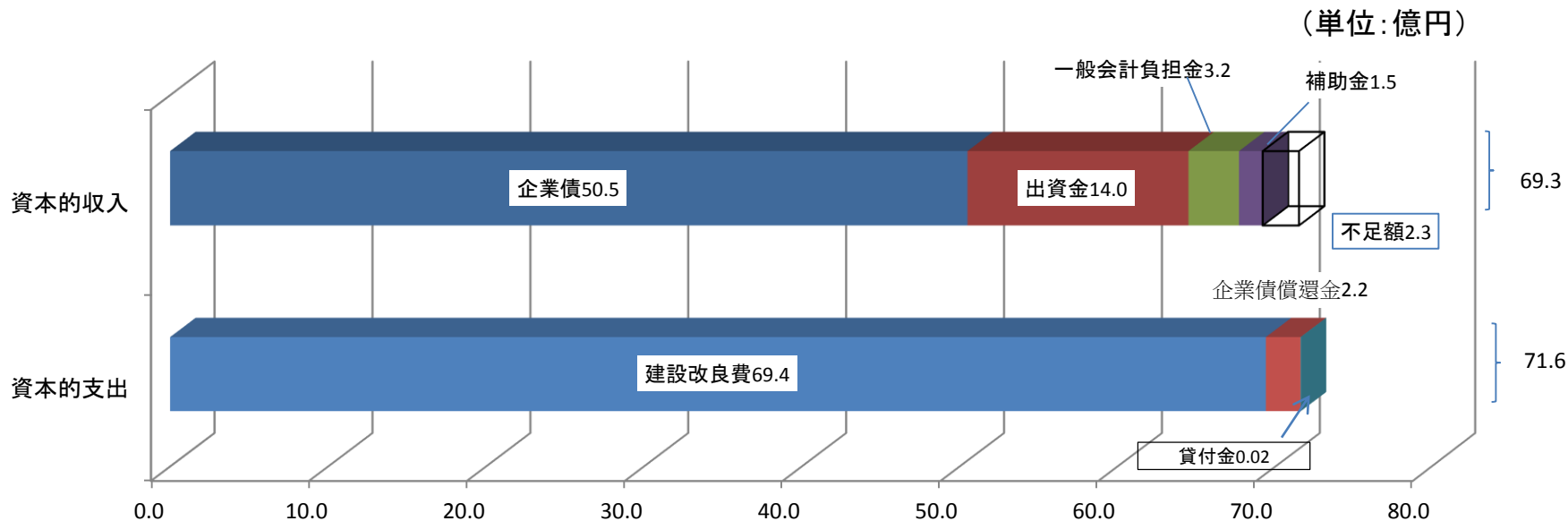
【分析と課題】

みんなの病院開院後の患者数は、入院・外来ともに順調に推移しており、それに伴って収益も増加しているが、一方で、施設規模が拡大したことによる施設管理経費や、患者数・手術件数の増加に伴う材料費の増大が想定以上に発生している。

これまで以上に「良質な医療の提供」とともに「患者サービスの向上」に努めることはもちろんのこと、給与費や材料費、経費などの費用について、可能な限りの圧縮に努める必要がある。



5 みんなの病院の資本的収支 ア 収益対費用



イ 建設改良費の内訳

○新病院整備	69億2,929万円
〔 工事請負費	46億2,168万円
医療備品購入費	19億194万円
○医療機器購入	473万円
○管理備品購入	242万円

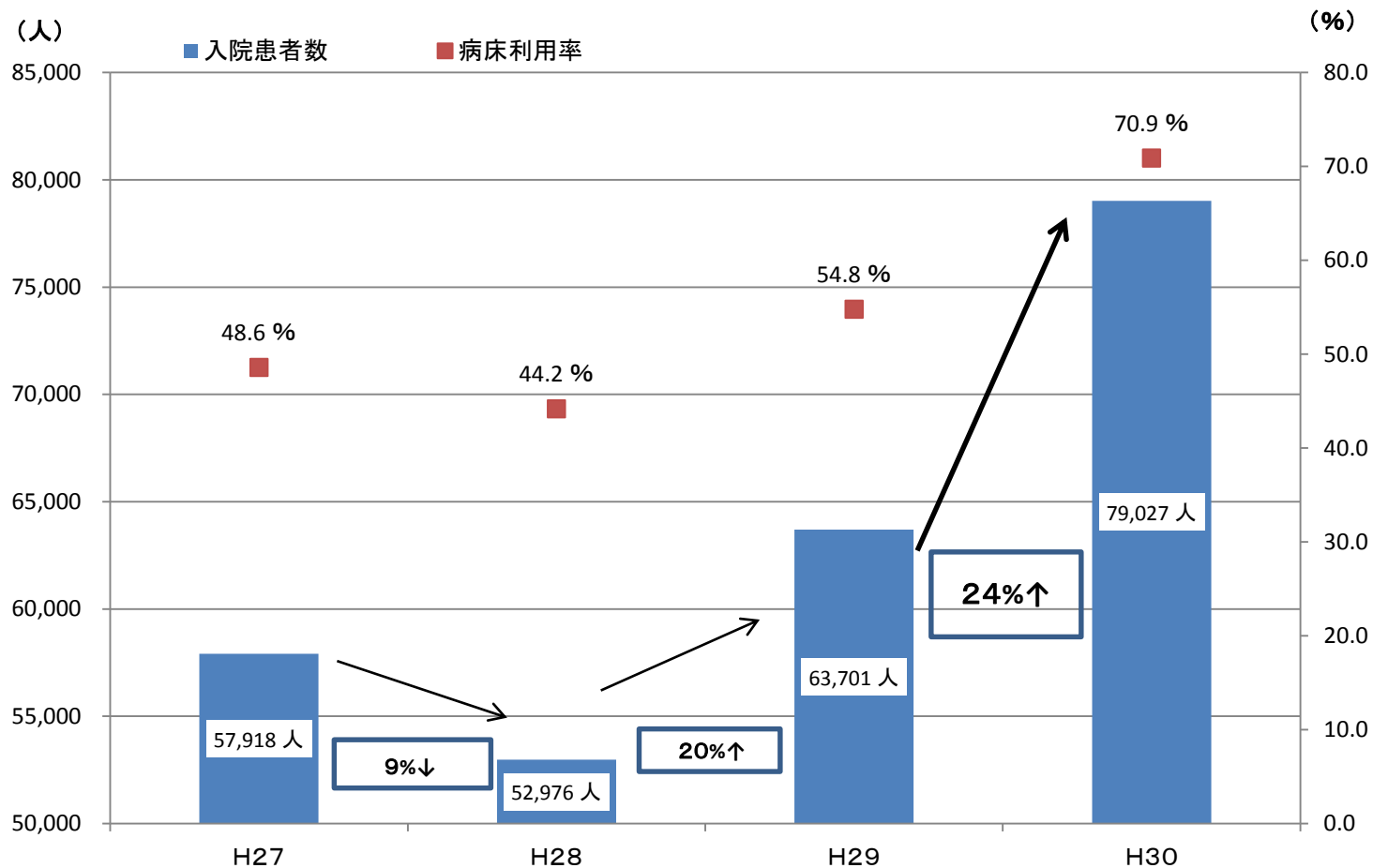
【分析と課題】

建設改良費については、その財源として企業債や一般会計からの出資金・負担金により賄われており、平成30年度における病院事業からの持ち出しは2億3,337万円となっている。新病院整備事業に係る企業債償還が本格化する令和2年度(2020年度)以降は、資本的収支に係る不足額がさらに拡大するため、収益的収支において現金を留保する必要がある。



市民／みんなの病院

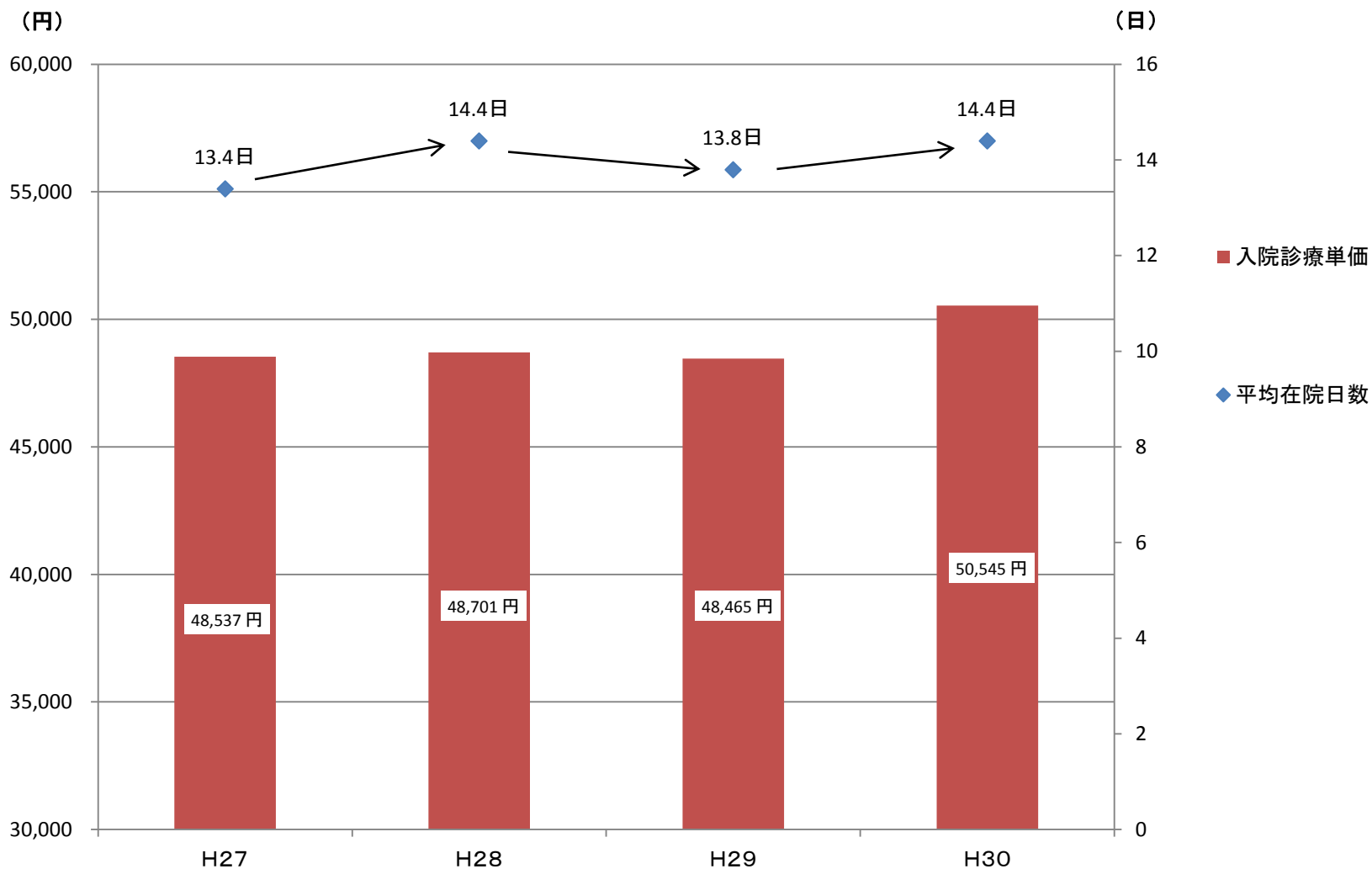
6 入院患者数と病床利用率



【H30分析】
H29に比べ1日当たりの患者数は42人増加するとともに、診療単価も、前年度(48,465円)を上回る50,545円となったことから、入院収益は約9億700万円増加した。



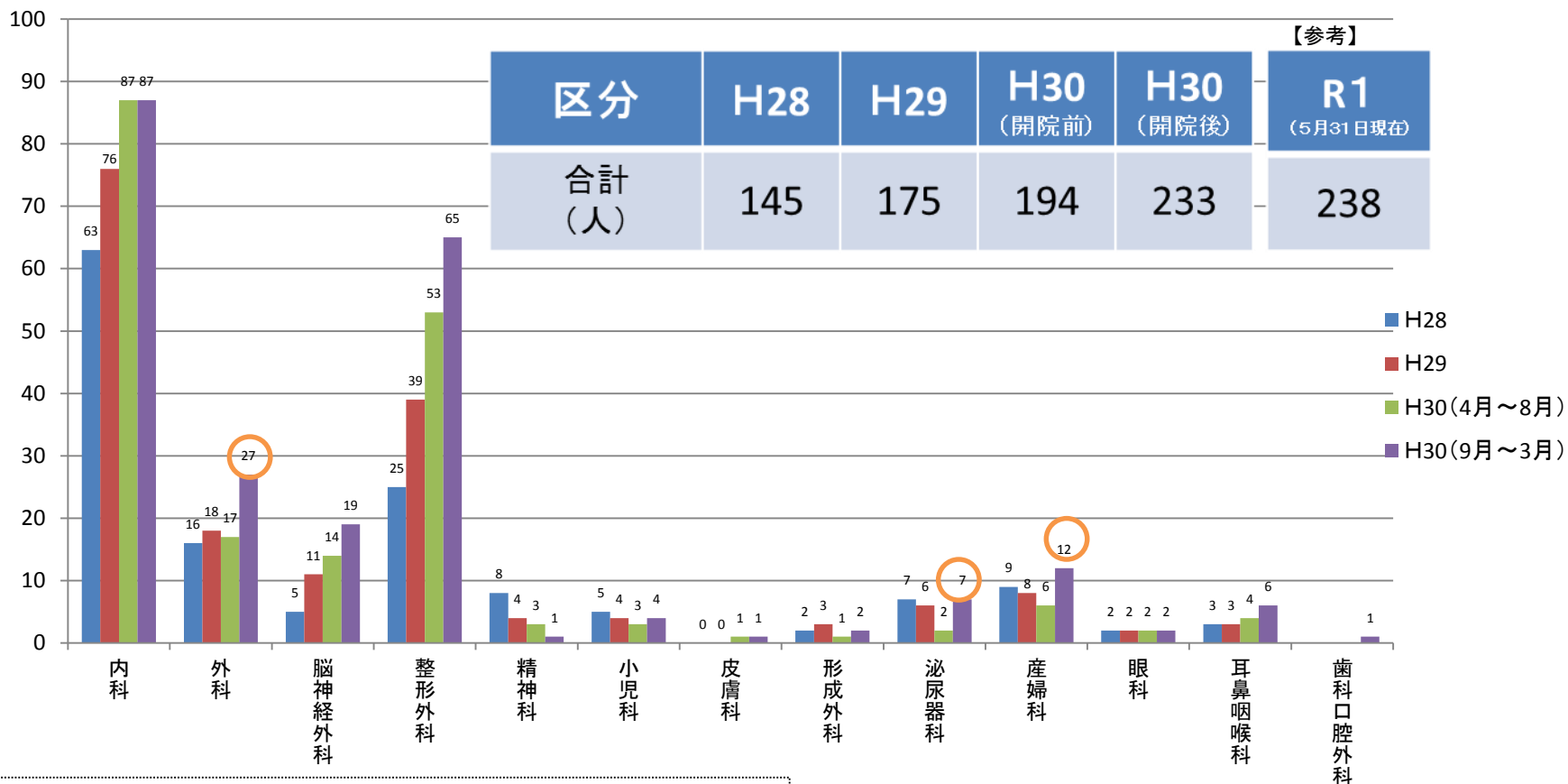
7 入院診療単価と平均在院日数





8 診療科別1日当たり入院患者数の推移

(人)



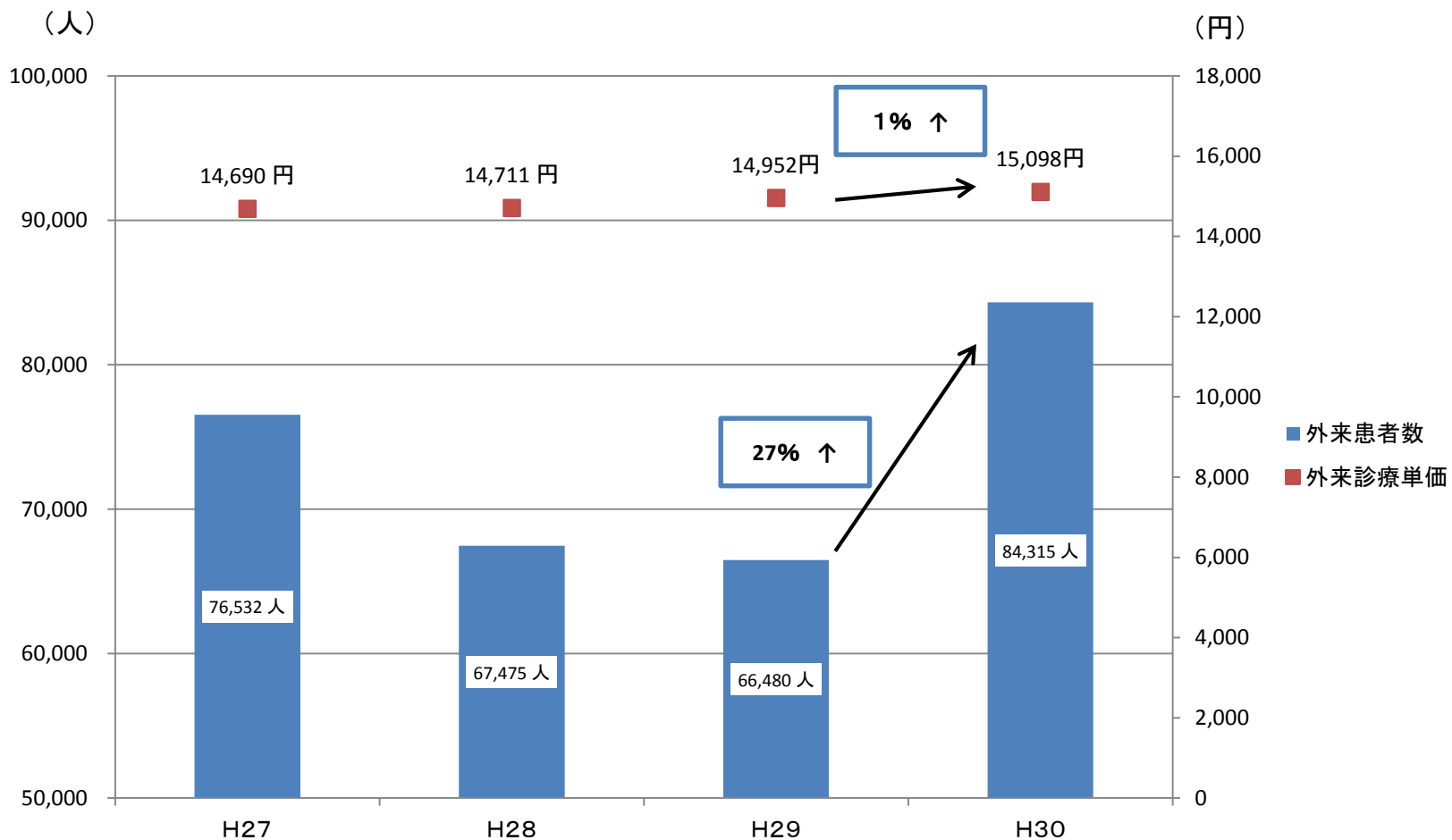
【分析と課題】

H30年9月の開院後、「外科」「泌尿器科」及び「産婦人科」の入院患者数が増加に転じるとともに、「脳神経外科」及び「整形外科」は、増加傾向を維持した。総入院患者数の回復には、内科患者の獲得が必須である。

※放射線科、麻酔科等は計上していない。
 ※内科は、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科及び神経内科を含む。
 ※外科は、呼吸器外科を含む。



9 外来患者数と外来診療単価



※「高松市民/みんな」には、香川診療所分を含めていない。

【H30分析】

患者数は前年度から27%増加するとともに、機能分化の推進により、診療単価は1%増加した。



10-1 塩江分院の収益的収支

ア 前年度との比較

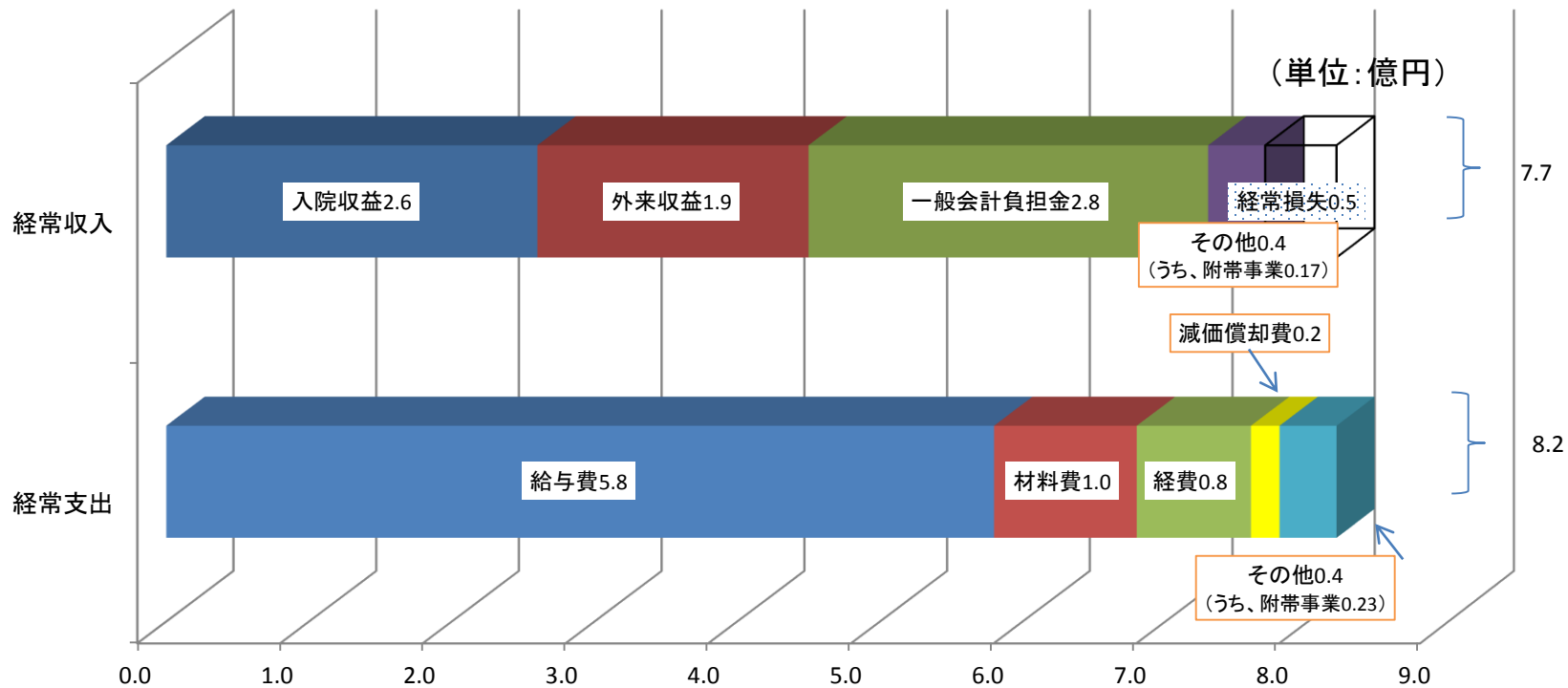
(単位:百万円)

区 分		H30	H29	差引増減
経常収益	医業収益	463	515	△52
	うち入院収益	263	285	△22
	うち外来収益	189	218	△29
	医業外収益	289	246	43
	うち一般会計負担金	281	238	43
	附帯事業収益	17	16	1
	合計	769	777	△8
経常費用	医業費用	783	807	△24
	うち給与費	580	591	△11
	(職員数:人【正規医師数】)	46【4】	48【4】	△2【0】
	うち材料費	104	123	△19
	うち経費	80	74	6
	うち減価償却費	16	16	0
	医業外費用	17	18	△1
	附帯事業費用	23	23	0
	合計	823	848	△25
差引	△54	△71	17	

※税抜 ※端数処理の関係上、合計と一致しないものがある。



10-2 塩江分院の収益的収支 イ 収益対費用



【分析と課題】

過疎地域という地域性から、経常収入に占める一般会計負担金の比率は高い。

また、入院・外来収益をもって給与費を賄えていない状況から、今後、運営のあり方を見直していく必要がある。